

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4077800110		
法人名	社会福祉法人 大川医仁会		
事業所名	グループホーム あおぎり荘		
所在地	福岡県久留米市城島町芦塚804番地3 (電話) 0942-62-2150		
自己評価作成日	平成23年9月23日	評価結果確定日	平成23年12月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

近くには筑後川を臨み、水田が広がる昔ながらの風情を感じることが出来る環境は、市街地には無いアピールポイントである。又、事業所自体も隣組の一つとして参加しているように、近隣の保育園や小学校、婦人会、老人クラブ等との交流も非常に多く、事業所の運営に多大な協力を頂いている。
法人全体でリスクマネジメントに積極的に取り組んでおり、介護事故を「0」にする為に、様々な視点から分析・検討を行っている。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.fsw.or.jp/kohyo/top.html
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会	
所在地	福岡県春日市原町3-1-7	
訪問調査日	平成23年11月10日	

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

当事業所は田園地帯の広い敷地にゆったりと建てられ、同法人のデイサービス事業所が隣接している。周りの1km程は、よい散歩道となっており、利用者の活動の場となっている。自治会に加入し、事業所主催の秋祭りでは計画段階から地区と話し合い、小中高校生の他、多数の住民の参加がある。代表者や管理者は職員の意見などを大切にし運営に取り入れており、書類等も見やすく使いやすい工夫がされている。職員体制にも配慮され、2人体制での通院支援、専門家によるリハビリも行っている。又、職員間は連携もよく、生き生きと働きやすい職場となっており、利用者に対してのサービスの向上に対する取り組みも意欲的である。

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「私たちは地域の一員です」と理念を掲げ、全職員の自覚を促し、事業所全体だけではなく、個人個人が理念を実践出来るように努めている。	地域密着型サービスの意義を全職員で共有し、独自の理念を掲げ、実践に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入しており、清掃活動や地域行事等にも参加している。又、小学校や保育園、老人クラブ、婦人会などの団体とも定期的に交流を図っており、事業所の行事の際には、慰問やボランティアとして参加していただいている。	自治会に加入し、清掃活動やイベントなどの自治会活動に参加している。広報誌を区長や民生委員を通して地域に回覧している。又、近隣の保育園、学校、婦人会、老人クラブ、他との交流も密である。事業所主催の秋祭りでは計画段階から地域と協議し、地域住民の多くの参加がある。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の老人会に出向き、介護教室を行うなどの活動に取り組んでいる。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、地域密着型サービス事業所運営推進会議を行い、ゲストの入退所状況や近況報告を行っている。更に、会議に参加されている区長や民生委員に、事業所の取り組みについて意見やアドバイスを頂いている。	会議では利用者の状況やサービスの実際、事業計画や評価の取り組みなどを報告し、委員から意見をもらいサービスの向上に努めている。秋祭り等、運営についても話し合い、イベントが実りある物となっている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域密着型サービス事業所運営推進会議に久留米市担当者にも参加していただいている。又、日常的に連絡を取り、適時相談をしている。	市へは積極的に窓口へ出向き、相談や報告などを行って、連携を深めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止への理念を掲げ、職員を対象とした研修を行っている。	全職員は身体拘束に関する研修を受けており、マニュアルを作成し拘束をしないケアを実践している。外出傾向のある利用者には見守り付き添いなどを行っている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	心身両面の虐待が見過ごされることが無いように、ゲストに対し最大の敬意を払った対応を心掛けるように努めている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	市からの出前講座を依頼し、成年後見人制度についての職員研修を実施している。外部研修がある場合には、参加した職員が伝達研修を行っている。	制度に関して全利用者へ契約時に説明を行い、必要時には再度の説明をして活用できるよう支援している。職員は制度について出前講座の受講や外部研修を受講し、参加できなかった職員には伝達講習をしている。	
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前の説明は充分に行い、疑問点や不明点などが解消できるように努めている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関前に意見箱を設置。又、家族会などの機会で見聞を取り入れることが出来るように努めている。	利用者は日常的に要望や意見を述べる機会があり、外食やバスハイク等出された意見や要望を積極的にサービスに取り入れている。家族は、来訪時や運営推進会議等で意見や思いを述べる機会がある。4月には家族会も発足した。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ブロック会議、運営会議、経営委員会など、理事長や理事会まで職員の意見がスムーズに伝達できるシステムを構築している。	自己評価は全職員で話し合って作成した。ユニット毎の会議、ユニット合同会議、隣接デイサービス事業所との合同会議がそれぞれ月1回あり、グループホーム担当理事との面接が年2回あり、運営についても意見を述べることができ、職員の意見をサービス向上に反映させている。	
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課を行い、職員が理事と面接できる機会を設け、職員個人の取り組みや努力などをダイレクトに知ることができている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	採用時に、年齢や性別の制限を設定して募集をしていない。 又、個人の意見を尊重した上で人員配置や勤務形態の変更などを考慮している。	職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除していない。配置や勤務形態等は個人の希望を尊重し、年齢、体力、育児等家庭的状況等にも考慮し、それぞれの職員が社会参加や自己実現をできるように努めている。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権教育・啓発活動に対する研修を実施している。	全職員は人権に関する研修に参加し、参加できなかった職員がいれば伝達を行っている。 利用者に対しては言葉遣いや対応など人権を尊重した支援がされていた。	
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員や中堅職員など、段階に合わせた内容の研修を行い、職員育成を図っている。 外部研修にも積極的に参加している。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	久留米市主催の同圏域内事業所の交流会に参加している。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に本人・家族から十分なアセスメントを図り、不安の解消や注意点などを事前に検討し、安心を提供できるように努めている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	不安な点や疑問点を伺い、気兼ねなく何でも聞いてもらえるような雰囲気作りに努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前の面談の際に、本人・ご家族のニーズの把握に努め、事業所に求められていることを把握するようにしている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	事業所はゲストにとって「家」であり、スタッフは「家族の一員」である認識を常日頃の業務の中で心掛けるようにしている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人とご家族の関係が希薄化しないように、事業所でどう過ごされているかを定期的に報告している。又、ケアを実施する上で、ご家族に報告・相談を行っている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近所から入所された方は、お知り合いの方の来訪を促したり、行き慣れた理髪店へお連れしたりしている。	管理者や職員は利用者の馴染みの人や場所について把握するように努めている。自宅への希望があれば同行したり、地区行事に参加した折りに、知人へ職員が事業所への来訪を呼びかけるなど関係が途切れないよう支援に努めている。	
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食堂を共有の場のメインとし、畳のスペースやソファのスペースなど、共有の場を複数用意し、気の合う方とゆっくりお話が出来るように努めている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された後も、ご家族の相談に応じたり、イベントの際にはご案内を送るなどしている。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人だけでなく、ご家族の意向も尊重し、状況に応じたケアの実現が出来るように、随時相談・カンファレンスを行っている。	職員は日々の関わりの中で、思いや意向の把握に努めている。意志疎通が困難な場合は、家族から情報を得るようにしている。	
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事業所へ入所される経緯や入所前の生活環境、生活歴などの情報収集に努め、その情報をスタッフ間で共有している。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人の現状把握の為、アセスメントを通じて、「できること」と「できないこと」を明確化し、残存機能の維持・発見に努めている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画を作成する上で、本人・ご家族・主治医等の関係者の意見を聴取し、本人の希望に応じた内容の計画書が作成できるように努めている。	それぞれ担当職員が、本人・家族の思いや意向を聞き取り、関係者全職員で情報を共有しながら6カ月を目標に一人ひとりに添った個別の具体的計画を作成している。また、利用者の状況に応じて随時見直しをしている。介護計画書に家族等からの署名捺印がある。	
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人ファイルを作成し、日常生活の中での本人の状況・状態を介護記録や業務日誌に記録し、且つケアプラン実施表を活用しながら介護計画書の見直しを行っている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ターミナルケアを実施した際には、通常の夜勤者1名体制を2名に増やすなどして、あらゆる状況の対応に努めている。又、本人やご家族の希望に沿えるように、要望があれば出来る限り応じることが出来るように努める旨を説明している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員の来訪や、往診の受け入れ、利用者の希望によっては、郵便局や美容室へ出向くなどの対応を行っている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用以前からのかかりつけ医や受診経過、今後の受診についての要望等の把握に努め、その意向に沿った受診を支援している。	入居前のかかりつけ医による受診を支援している。通院介助は、職員が2人体制で行い、情報の伝達方法も家族等と合意し、随時伝達している。	
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤の准看護師だけでなく、医療連携体制担当の看護師や、同敷地内別事業所の看護師等との連携を密にとり、適切な受診やDrの指示に沿った看護が受けられるように努めている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	ゲストが入院された際には、可能な限り一日置き又は毎日、職員が病院を訪れるように努め、早期退院へ向けて、担当医師・看護師と相談・情報交換を行っている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアを実施する際の、事業所の指針や実践状況は、入所前にご家族に十分に説明を行い、終末期が近付いた際には、改めて意向を伺うようにしている。 又、ターミナルケアの実施の際には、本人とご家族の意思を最大限に尊重し、望まれる形での最期を迎えていただけるように努めている。	「重度化及び看取りに関する指針書」事業所の対応方針があり、明文化している。利用開始時に家族等へ説明を行い、看とり期には、利用者・家族等の意向を大切にしながら関係者と十分に話し合っ合意を図り支援している。看取り同意書があり家族等の意思確認をしている。	
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に1度、消防署に依頼し、救急救命講習を実施している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域密着型サービス事業所運営推進会議にて、区長や民生委員、市役所職員などにも参加して頂き、合同で避難訓練を実施し、災害時の協力体制を依頼している。	マニュアルを作成し、消防署の協力を得て、年2回避難訓練・消火訓練を実施している。他に事業所独自で3カ月毎に昼夜想定訓練を実施している。運営推進会議や自治会を通じて訓練への参加協力の呼びかけをしている。非常用食品・飲料・医薬品・情報機器等を準備している。	
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人の性格や生活歴を参考に、自尊心を傷つけないような言葉かけに注意を払っている。	職員は、利用者が誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応をしないことを心がけている。定期的に研修会を持ち、意識向上を図っている。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の会話の中で、利用者の望む事の把握に努め、自己決定が出来にくい方や自分の希望が伝達しにくい方に対しては、本人の表情や反応をもとに家族と話し合い、決定していくようにしている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の希望や気分によって変わる一日のスケジュールに対しても、柔軟に対応を行い、本人の意思を尊重した一日が過ごせるよう支援している。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧を促したり、洋服を決める際にも、本人が気に入った物や選んだ物を着れるように配慮している。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者ができる調理は行ってもらったり、一緒に食事の準備を行ったりしている。また、職員も利用者と一緒に食事を摂り、食事を共に楽しむ雰囲気作りを心掛けている。	職員と利用者は、出来る範囲で下準備を行い一緒に食事を摂っている。食の楽しみを共有できるように職員が雰囲気づくりに努めている。食卓には、菜園で育てた旬の野菜が膳のり、栄養バランスにも配慮している。嗜好調査をして献立にも取り入れている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日に必要な食事量や水分量が確保できるようにチェック表を用いている。また、健康状態に応じて、調理の工夫を行っている。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科衛生士による食後の口腔ケアを実施し、口腔内の異常の早期発見や清潔保持に努めている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄能力に応じて、排泄支援を行っており、排泄パターンをチェック表にて把握し、出来る限りトイレにて排泄が出来るように促している。	職員は、利用者一人ひとりの排泄状況、パターン、習慣を活かしてさりげなく誘導している。また、バット、紙パンツの利用を極力抑えられるよう職員間で情報伝達しながら排泄の自立に向けた取り組み支援を行っている。	
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝、きなこ牛乳やヨーグルトを摂取して頂き、且つ朝の体操やレクレーションにて運動を取り入れ、自然排便を促している。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	利用者の希望される時間帯に出来る限り対応し、入浴拒否のみられる方については、無理強いせず、対応の仕方や職員を変更する等にて気持ちよく入浴して頂けるよう支援している。	基本的に毎日入浴ができ、利用者の希望にそった時間帯の入浴を支援している。入浴を拒否される利用者には、言葉かけを工夫したり、職員を代えたり、家族に電話で声掛けしてもらおう等柔軟に対応し、入浴が楽しめるように支援している。	
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	行事や毎日の心身の状況に応じて休息を促している。また、個別に睡眠チェック表を活用し、安眠を促すよう努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬内容を把握し、薬が変更になった際には副作用等が記載された説明書を回覧し、職員間で把握できるよう努めている。また、変更になった際には、充分に状態変化の把握に努め、主治医への報告を行っている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の心身の状況に応じて、日常生活の中でできる洗濯物たたみや掃除などを職員と一緒にしている。また、趣味や好まれることを把握し、レクリエーションや余暇活動に取り入れている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の希望により、美容室や買い物に出かけている。また、昔馴染みの方の友人宅や本人の自宅へ出向いたり自由に外出ができるよう支援している。	天気や利用者の体調・希望に応じて、庭や周辺を散歩している。外食や買い物、ドライブ等の外出支援にも随時取り組んでいる。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持に関しては、家族との話し合いの結果、本人の管理できる範囲を所持して頂き、買い物の際には、自ら支払いを行ったりできるように支援している。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望される時に電話が出来るように支援している。また、手紙のやり取りも職員が代筆等の支援を行いながら、関係性が切れないよう心掛けている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	特に共有空間に関しては、清潔で明るい雰囲気作りを心掛けており、家族との交流の場にも使用したりしている。また、室温や湿度はこまめに確認をし、不快感を抱かれないよう心掛けている。	畳の間のコタツ、ソファやテーブルの配置に工夫し、共用生活空間が、利用者にとって居心地良く過ごせるようなゆとりある空間となるように配慮している。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやテーブル、コタツ等を配置し、思いのまま自由に過ごせるようにしている。また、利用者の思いにそった場所を提供している。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内の家具やベッドの配置に関しては、本人の心身の状況に配慮しながら、ご家族とも相談し、安全で且つ安心して過して頂けるようにしている。	居室は、身体機能やこれまでの生活状況に合わせてベッド・畳の部屋が利用できる。整理タンスや洋服掛け、馴染みの物が持ち込まれ、壁には家族写真やイベントでのスナップ写真、縫いぐるみ等があり、本人が安心して過ごせるような工夫をしている。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者一人ひとりの身体的能力に応じて、ベッドへの介助バーの設置や移動空間への手すりの設置、畳の使用などの環境整備を行い、残存機能が維持できるように工夫している。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	-	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいの
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいの
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
59	-	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	<input type="radio"/>	①毎日ある
			<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
			<input type="radio"/>	③たまにある
			<input type="radio"/>	④ほとんどない
60	-	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
61	-	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
62	-	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
63	-	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
64	-	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		（該当する箇所を○印で囲むこと）	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
65	-	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 （参考項目：9, 10, 21）	○	①ほぼ全ての家族と
				②家族の2／3くらいと
				③家族の1／3くらいと
				④ほとんどできていない
66	-	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 （参考項目：2, 22）	○	①ほぼ毎日のようにある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
67	-	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 （参考項目：4）	○	①大いに増えている
				②少しずつ増えている
				③あまり増えていない
				④全くいない
68	-	職員は、生き活きと働いている。 （参考項目：11, 12）	○	①ほぼ全ての職員が
				②職員の2／3くらいが
				③職員の1／3くらいが
				④ほとんどいない
69	-	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
70	-	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が
				②家族等の2／3くらいが
				③家族等の1／3くらいが
				④ほとんどいない

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「私たちは地域の一員です」と理念を掲げ、全職員の自覚を促し、事業所全体だけではなく、個人個人が理念を実践出来るように努めている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入しており、清掃活動や地域行事等にも参加している。 又、小学校や保育園、老人クラブ、婦人会などの団体とも定期的に交流を図っており、事業所の行事の際には、慰問やボランティアとして参加していただいている。		
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の老人会に出向き、介護教室を行うなどの活動に取り組んでいる。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、地域密着型サービス事業所運営推進会議を行い、ゲストの入退所状況や近況報告を行っている。 更に、会議に参加されている区長や民生委員に、事業所の取り組みについて意見やアドバイスを頂いている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域密着型サービス事業所運営推進会議に久留米市担当者にも参加していただいている。 又、日常的に連絡を取り、適時相談をしている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止への理念を掲げ、職員を対象とした研修を行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	心身両面の虐待が見過ごされることが無いように、ゲストに対し最大の敬意を払った対応を心掛けるように努めている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	市からの出前講座を依頼し、成年後見人制度についての職員研修を実施している。外部研修がある場合には、参加した職員が伝達研修を行っている。		
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前の説明は充分に行い、疑問点や不明点などが解消できるように努めている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関前に意見箱を設置。又、家族会などの機会で見聞を取り入れることが出来るように努めている。		
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ブロック会議、運営会議、経営委員会など、理事長や理事会まで職員の意見がスムーズに伝達できるシステムを構築している。		
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課を行い、職員が理事と面接できる機会を設け、職員個人の取り組みや努力などをダイレクトに知ることができる。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	採用時に、年齢や性別の制限を設定して募集をしていない。 又、個人の意見を尊重した上で人員配置や勤務形態の変更などを考慮している。		
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権教育・啓発活動に対する研修を実施している。		
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員や中堅職員など、段階に合わせた内容の研修を行い、職員育成を図っている。 外部研修にも積極的に参加している。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	久留米市主催の同圏域内事業所の交流会に参加している。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居される際、事前に本人・ご家族と面談を行い、本人が困っていることや不安なこと、要望等に耳を傾けながら安心してご利用していただけるようにしている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に施設見学を兼ねて来荘していただき、ご家族の話を十分に聞き、意向・要望の把握に努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントの段階で、本人・ご家族の意見・要望を聴取し、他事業所より情報収集し、ケアプランに位置付け、サービスを実施している。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の関心や興味を持たれているものを探り、趣味活動を通じて役割を持っていただき、本人との関りを大事にしている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会時、近況報告や相談をしながら、家族との絆を大切にしている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	原則として、面会や外出、外泊の規制は行わず自由に来荘していただき、継続的な交流が出来ている。		
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共同生活において一人ひとりゲストが孤立されないように、職員が中に入りコミュニケーションを通じてゲスト同士の関係作りにも努めている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居される際は、退居後の行き先等、家族とも十分に話し合い、経過を見守りながら気軽に相談や支援に応じている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ゲストとの日々の関わりの中で、一人ひとりの思いを知り、統一したチームケアに取り組んだり、困難な場合は、ご家族からの情報を元にカンファレンス等で検討している。		
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にご家族より生活歴、馴染みの暮らし方、生活環境、サービス利用の経過等の情報収集を行い、不十分な点については、本人より情報収集を行い、状態把握に努めている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	カンファレンス等で、本人・ご家族から得た情報を職員間で共有し、本人の意思を尊重した関わり、心身状態の把握に努めている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員全員でアセスメント・モニタリングを行い、本人の状態変化時、ご家族の意向変化時は、現状に合わせた介護計画を作成している。		
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子、ケアの実践結果など、介護記録に記載し、ケアプラン実施表を活用して毎月評価を行い、介護計画の見直しに活かすことが出来ている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外泊時は、ご家族の希望に応じて職員で送迎したり、PT・OTより機能訓練や指導を受けるなど、その時の状況やニーズに合わせて対応している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の民生委員・区長・婦人会・保育園等、秋祭りに参加していただいたり、地域の一員として地域の行事に参加させていただき、緊急の際には協力を得られるように努めている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・ご家族の希望を大切に、希望された主治医のもと、適切な医療を受けられている。		
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	他職種（ケアマネージャー・看護師・歯科衛生士）と密に連携を図りながら、必要に応じて適切な医療機関の受診ができています。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院の際は、病院関係者情報提供を行い、できるかぎり面会に行くことで、本人・ご家族の精神的負担の軽減に努めている。又、面会時は病院関係者に診療状況の確認を行い、早期退院できるように努めている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	健康状態に関して必要に応じて家族と主治医の話し合いの場を設け、家族の意向に沿った支援をしている。又、重度化に伴う家族の心理状況変化に合わせ、意向確認を行い、関係者と対応方針を共有し支援している。		
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に1回、消防署より救急救命士を招き、全職員を対象とした救急救命講習を実施している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域密着型サービス事業所運営推進会議にて、区長や民生委員の方々に災害時の協力を依頼するとともに、地域の方にも避難訓練に参加していただく機会を設けている。		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーに配慮した言葉掛けを心掛けている。		
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言葉だけではなく、表情や全身の反応を見ながら本人の思いを感じ取り、自己決定できるように努めている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ゲストのその日の状態に合わせ、柔軟な対応を行い、希望に沿った支援を心掛けている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一人ひとりの個性、生活歴等に応じて、その人らしいおしゃれが出来るように支援している。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に食事を味わいながら、会話を楽しんでいる。又、一人ひとりに嗜好調査を行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日必要な食事や水分の確保ができるよう、職員全員が意識を持ち、支援している。又、健康状態に応じて食事制限を行っている。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔状態を観察しながら、清潔保持に努めている。又、歯科衛生士の指導を受けている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、出来る限りトイレでの排泄が出来るよう声掛け、羞恥心に配慮しながら誘導している。		
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然排便を促す為、毎日きな粉牛乳を摂取していただき、飲食物の工夫をしている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	毎日入浴は実施し、時間帯も出来る限り本人の希望に沿った入浴を支援している。		
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動状況、精神状態等を把握しながら、夜間、安心して眠れるように支援している。又、個別に睡眠のパターンもチェックしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ゲストが服薬されている薬の用法、副作用等が記載された説明書を閲覧し、情報の共有に努めている。 又、行動・睡眠チェック表等を活用し、精神薬の過剰服用ならないよう、状態把握に努め、主治医との連携を図っている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	アセスメントを通じて、本人・ご家族の意向や希望の把握に努めている。 本人の状態に合わせて、塗り絵・活け花・カラオケ等のレクリエーションを行い、洗濯物を干したり、たたんだりなどの活動提供に努めている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	定期的な外出支援のほかに、ゲストの希望に応じていつでも出掛けられるように支援している。又、地域行事等にも参加し、地域の方々との交流も図っている。		
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持に関しては、本人・ご家族と事前に話し合い、所持していただくか、事業所で管理するか決めている。又、本人が欲しいものを選んで購入してもらおう等の買物支援に応じている。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ゲストの希望時は、自らご家族へ電話できるように支援している。又、ご家族が本人へ電話を掛けてこられる場合も、必要に応じた対応を取っている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同生活空間を居心地良くすごしていただけるように、常に清潔を保つように心掛けている。室温・湿度に留意し、異臭がする場合は即座に換気を行い、ゲストが不快な思いをされないように努めている。 又、活け花を飾り、視覚で季節を感じていただけるように心掛けている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ゲスト一人ひとりが、思いのままにすごしていただき、お独りの時間を満喫していただけるように、ソファやテーブルの配置に工夫している。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人やご家族と相談し、安全に過ごしていただけるように家具を配置している。又、使い慣れたものや、好みのものを配置し、本人にとって居心地の良い居室になるように支援している。		
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室内の手すりの位置や、畳・ベッド使用等、ゲスト一人ひとりの身体状況に合わせた環境作りに努めている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	-	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	○	①ほぼ全ての利用者の
				②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	-	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	○	①毎日ある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
60	-	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
61	-	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
62	-	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
63	-	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
64	-	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
65	-	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	①ほぼ全ての家族と
				②家族の2/3くらいと
				③家族の1/3くらいと
				④ほとんどできていない
66	-	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)		①ほぼ毎日のようにある
				②数日に1回程度ある
			○	③たまにある
				④ほとんどない
67	-	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	①大いに増えている
				②少しずつ増えている
				③あまり増えていない
				④全くいない
68	-	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	①ほぼ全ての職員が
				②職員の2/3くらいが
				③職員の1/3くらいが
				④ほとんどいない
69	-	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
70	-	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		①ほぼ全ての家族等が
			○	②家族等の2/3くらいが
				③家族等の1/3くらいが
				④ほとんどいない